

- 1E・C の本体に近い造物主への畏敬の念が薄い、本当は儀式が必要、最初から機嫌悪し。
- 2 每夜祈った相手?自分を知り、宇宙を知る事。宇宙の中心につながって瞑想していた。
- 3 人類の進歩史観は「退化史観」かも。進歩した星から来ても地球で退化、生き残れたのは一割以下、原始人へ堕落の歴史。地球に来る理由?道徳や如来の自己犠牲、存在の愛を学ぶため。
- 4 多様な星から避難する人の避難所、サンクチュアリにしようと努力した。レプ属の攻撃でプレアデス、ベガの伴星から逃げてきた人もいた。彼らの科学技術は高かったが、地上の憎しみの総決算に使用され、核戦争で共倒れになることが多かった。現代の冷戦構造の様
- 5 ムーの時代も核兵器とは言っていないが、星を吹っ飛ばすようなものがあった。そうさせないために、“原始人化”させ、野獣からの防衛戦に切り替えさせた。地球破壊の防止策
- 6 逃げてくるものを追いかけてくる種族もいた。地球文明に他の文明を入れるブレンドの比率がE・Cの仕事。天津神系と国津神系の比率など?地球出身も金星でのエルミオーレ系の魂だが。
- 7 当時、空気より軽い気体を製造し、飛行船で世界一周していた。現代社会は原始化の流れの中にある。盛り返し感はこの2~300年のこと。古代天皇は万国巡航していた(竹内文書)。
- 8 現代より進んだ科学技術あり。空中映画、宇宙動物の飼育、象形文字のルーツ、左右逆にならない鏡、太陽光線の利用など。飛行船は全天候型でアトランティスより進んでいた。
- 9 当時は「天使人類」がいて、靈界と地上を往来してきた。科学技術の高い宇宙から来てまだ没落していない部族が、「祭祀階級」として最高の地位にいた。ヒマラヤ聖者、アデプトの話。時々空中から出現する何百歳の美女。水上歩行、高所への瞬間移動、食料の空中取り出しなど。
- 10 幽霊化しようと思えば、体が透明になり、天上界にも入れる。地上に住もうと思えば住める。天孫降臨など半神半人型の人間のことで、ギリシャにもいた。これが「神々のもと」
- 11 ファントム型人間(アデプト)は地上に物質化したときには、飲食も可能。量子変換した時には靈人になる。アデプトには「生」も「死」もない。大人のままで誕生もできる。
- 12 「神」(宇宙からの人)と「人間」には明確な差があった。仏教的な転生輪廻説とは違った。他の人間を食べて魂のパワーを増やす、という種族もいたし、外見を変化させる種族もいた。DNAは設計図で、設計図を変えて量子変換すれば、外見も変わる。(ベガ系)
- 13 灵界の方が本拠地と考えているうちは量子変換ができるが、この世への固定観念が強くなるとできなくなる。アデプトは量子変換で物質化したものに生命を吹き込む事もできる。造物主?
- 14 生命エネルギーのもとは太陽エネルギーである。太陽がなければ魂は存在しない。人間はたいてい(地上で造られた如来以外?)は動物の変身(宇宙人時代の姿)を持っている。
- 15 地上の大川隆法は人間的意識が強すぎて、「造物主」意識がまだ弱い。(だから弟子に甘くて、叱れないといふことか?)私は「星間転生輪廻」しながら、魂を創ってきた意識あり。最初に態度が悪いと言ったのは「造物主と話をしている」ことが分かっていないからだ。
- 16 E・Cが姿を見せるのは、地球の歴史の“一瞬”である。あとは姿を現すことはない。
- 17 科学者というのは「物ばっかりいじっている」レベルが下がったもんだ。信仰を強要する気はないが、(量子変換などを)理解できないのなら、信じるしかないと言っているだけ。
- 18 ムーが陥没したのは(ラ・ムー没後2000年)宇宙的技術を「欲望」とか「権力欲」に奉仕するようになり、人を奴隸化して使用するようになったこと、天使人類を迫害するようになったから。一旦原始化してやり直させる、これを繰り返してきたのが人類史の真相。
- 19 現在また危機的である(中国の体制)。大災害のタイムリミットは今世紀中に来る。